

一般質問

(4面～6面) 6月4日、5日、6日、7日

※原稿は市長部局の答弁も含めて各議員が作成しています。

会派の略称	(自民党・信頼)	自由民主党・信頼の小金井	(情報公開)	情報公開こがねい
	(日本共産党)	日本共産党小金井市議団	(改革連合)	改革連合
	(公明党)	小金井市議会公明党	(生活者ネット)	生活者ネットワーク
	(みらい)	みらいのこがねい	(市民カエル)	市民といっしょにカエル会
	(こがねい)	小金井をおもしろくする会	(緑・つながる)	緑・つながる小金井
	(市民会議)	こがねい市民会議		

市の重要施策について



吹春やすたか (自民党・信頼)

①西岡市長は選挙公報に記載した内容を覚えているか。(イ)稲葉前市長は、職員数を95人から67人へ、人件費は98億8千200万円から59億800万円へと減らしているが、行財政改革は進まなかったと言った理由は。(ウ)稲葉前市長の任期中の経常収支比率と人件費率の改善率は、多摩26市トップと言われているが、西岡市長は、就任後1週間で地域手当増額を約束した。市長の認識は選挙公報どおりか。

市長 (ア)覚えている。(イ)出馬に際し、当時の行財政改革の方向性だけでは課題を乗り越えられないと判断

子どもたちの安全を守るためにできること



小林正樹 (公明党)

ここ最近、子どもたちを取り巻く悲惨な事故や事件が相次いでいる。小金井市においても、未来を担う子どもたちを守っていくため、具体的な対応について考える必要がある。(ア)児童虐待に対する児童相談所との連携は。(イ)幼稚園や保育園のお散歩ルートの確認は。(ウ)警察との交差点のチェックは。(エ)小学校PTAで行っている安全点検の対応強化を。(オ)高齢者の自動車運転免許証の返納を進めないか。

子ども家庭部長 (ア)子育ての相談は多い状況。先般の虐待による死亡事案を受け、都の虐待防止条例の周知に努め、子どもの健やかな成長を社会全体で見守る機運を高めたい。(イ)より一層安全・安心な保育ができるよう考えて対応したい。

都市整備部長 (ウ)小金井警察署からは具体的な取組内容はまだ示されていないが、引き続き情報共有を図り、連携して対応したい。(エ)これまで以上に子どもの安全を最優先に考えていく。(オ)高齢者の公平性を考えて検討したい。

その他、良好な住居環境を築き、長く小金井市で安心して住み続けていただくために、一般住宅を建てる際の都市計画による規制誘導の見直しについて、他市事例を交えて質問しました。

共に学び共に生きる 小金井市を実現しよう



鈴木成夫 (みらい)

障がい者の理解と啓発のために作成したパンフレットを活用するために取り組むべきことは何か。

福祉保健部長 子ども向けと一般向けパンフレットを千500部ずつ、一般向けリーフレットを二千部作成した。今後は、更に市民の意見を聞き、趣旨の理解を進めることが必要で、対話や意見交換などを通じ理解促進、普及啓発に取り組むべきと考えている。障害者週間のイベントなどで機会を捉えて活用していきたい。

教育長 東京学芸大学の高橋教授と相談し、小金井市の多くの方々にパンフレット作成に関わり、知恵を出していただいた。教育委員会としても、障がいとは何か、何が障がいを作りだすのかを自分事として主体的に考え、様々な角度から検討した。障がいのある方もない方も共に学び共に生きる社会を作ること、答えのない問題として捉え、子どもたちと一緒に考え、より良い未来を作るきっかけになればと思う。

その他、特別な配慮や支援が必要な児童のため、民間保育園・幼稚園を対象に6月から開始する巡回相談「さらさらサポート」の課題と、市の相談支援サービスにおけるAI導入の検討について質問しました。

地域の見守り合いと認知症予防策の強化



沖浦あつし (みらい)

年齢を重ねても、このまに居れば安心だと思ってもらえる施策について問う。(ア)認知症は早期発見、治療で治せる場合がある。認知症予防の必要性は。(イ)現在の施策での実施件数はまだ少ない。認知症が重度化する前にいかに発見し、治療や予防策につなげていくのか。(ウ)認知症の正しい知識を伝え、見守り合いの教育が重要。また、認知症の方でも、本人の意思に沿ったその方らしい生き方を全うできるように対策を。

福祉保健部長 (ア)アルツハイマー型認知症の場合は治療による回復は難しいと言われるが、軽度の場合は発症を遅らせることができると。生き生きとした日常生活を送っていただきたいことから予防という考えで取り組む必要がある。(イ)市配布の高齢者福祉のしおりにも忘れ相談シート、認知症安心ガイドブックに認知症気付きチェックリストを掲載している。認知症に対する意識を市民の中でどのように醸成するかは研究課題。(ウ)普段の様子を知ってもらい、変化に気付ける地域のつながりや環境作りが大切。まずは相談窓口、市内イベント等を活用し、認知症、また高齢者の健康増進や介護予防につながる情報周知、実行に努めたい。

食品ロス削減推進法の趣旨を市民運動に



篠原ひろし (改革連合)

5月24日に食品ロス削減推進法が成立した。国が定めた法律だが、その趣旨をいかし啓蒙、実践していくのは国民、市民に最も身近な区市町村である。小金井市も3Rを提唱しているが、最優先すべきは、廃棄物の発生抑制であろう。福井県で始まった食べ切り運動が長野県松本市に波及し、宴会の始まり30分と終了10分前で食べ切る「3010運動」が提唱されたそうである。市民の意識付けに効果がある。市民、事業者等があらう。市民、事業者等の知恵を集め、市民運動として定着させていくべき。

環境部長 市独自に「2020運動」を提案している。食べ切りについては、家庭、事業者にも積極的に取り組んでもらうため、要綱整備を目標としている。

学校教育部長 食育教育の課題と捉えて校内活動で子ども自身が食べ残しを減らす取組をしている。



テーブルに置いて食品ロス削減をPR

歴史と文化を活用したまちづくりを考えよう



村山ひでき (みらい)

市の貴重な歴史と文化を保存し、活用を考えるべき。(ア)埋蔵文化財について、出土した土器や石器の写真をホームページに掲載する等の工夫を。(イ)AR技術によるスコープ貸し出しで遺跡の当時の様子を再現できる。研究を。(ウ)ウォーキングマップと連携し、指定文化財のアプリを。(エ)43か所の文化財説明板が設置されているが、近現代以降の文化財が少ない。かつてにぎわいがあった場所を中心に近現代の掘り起こしを。(オ)保存管理について電子化は進んでいるか。

生涯学習部長 (ア)充実を図りたい。(イ)ARやVR技術を駆使した公開は有効性があ、他市の事例もある。市内の遺跡に適した活用方法を研究したい。(ウ)昨年度から新設されたガイドウォークで小金井桜や文化財に親しめるルートが採用された。(エ)近代史でも、田中村研一郎が国の登録有形文化財に登録決定したように、価値があるので調査を進めたい。(オ)これからは古文書類の電子化、旧小金井市史のPDF化を検討したい。

その他、キンビバリの里の残地取得について、民間所有者の意思を確認し、ナショナルトラスト運動で集まった寄付の受入れを考えるべきと主張しました。

なぜ、待機児童は昨年よりも増えたのか



白井 亨 (こがねい)

今年度の小金井市の待機児童数は13人で、昨年比25人増である。(ア)待機児童解消はいつになるのか。(イ)再び増えた原因の分析は。(ウ)武蔵小金井駅南口第2地区再開発エリアの子ども人口増の推計は。(エ)近隣の駅前再開発の事例を参考に早めに対策を検討してはどうか。(オ)今年度の対応策は。

子ども家庭部長 (ア)昨年度の解消を目指したが、現時点ではいつという計画はなく、計画策定の準備をしていく中で明確にしたい。(イ)新規申請者が増え、特に2歳クラスは昨年比で人口減になったものの、新規申請者が2割増えたことなどが主な要因。新たに保育需要を掘り起こしたのではない。(ウ)現時点で児童人口推計はできていない。(オ)新規開設で定数の増を考えており、現在調整中である。

保育政策担当部長 (エ)情報収集をして対応したい。その他、保育計画について質問しました。



待機児童数増の分析をした自作資料 (本会議に提出)